

令和5（2023）年度 全国学力・学習状況調査における 士別市の学力等の分析

【令和5年12月14日 士別市教育委員会（学校教育課）】

令和5（2023）年度の全国学力・学習状況調査は、令和5年4月18日が調査実施日であり、士別市（教育委員会）では、全ての小中学校（小学校6校、中学校4校）で実施しました。

本調査結果から今後の学習指導の改善を図るため、文部科学省国立教育政策研究所資料の「調査報告書」に基づき、士別市教育委員会として次のとおり分析結果をまとめました。（調査問題および解答等につきましては国立教育政策研究所HPに掲載されています。）

1 調査の目的

国が示した本調査の目的は、次のとおりです。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 本調査実施に関する士別市教育委員会の基本的な考え方

士別市教育委員会は、本調査の目的を踏まえ、定められた方法に従って調査を実施しました。

- (1) 調査は、これまで各学校がそれぞれの計画に基づいて実施している標準学力調査などと同様に、通常の教育活動の一環として実施しました。
- (2) 調査結果は、児童生徒の学力の一端であり、本調査により測定できるのは、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえる必要があります。そこで、学校の序列化や過度な競争につながらないように配慮する視点から、学校ごとの結果は公表せず、士別市における学力傾向を明確化し、今後の授業改善等に資するために、士別市全体としての数値結果を公表します。
- (3) 教育委員会と各学校は、児童生徒の学力・学習状況のそれぞれの課題を把握・検証することによって、より適切かつ充実した教育活動を推進していきます。

3 調査実施日 令和5（2023）年4月18日（火曜日）

4 調査対象 (1) 小学校 第6学年 (2) 中学校 第3学年

5 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査は（国語、算数・数学、英語）※英語は中学校のみ

出題内容はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に問うものです。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は学習指導要領（平成29年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

本年度の主な調査項目は以下のとおりです。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・部活動（中学校のみ）
- ・地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や（学校における）人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

本年度の主な調査項目は以下のとおりです。

- ・生徒指導等
- ・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・各教科の指導方法
- ・ICTを活用した学習状況

* 質問紙調査については本年度4月の調査時点での回答で、調査後に授業改善がなされている、ICT端末の使用環境等が改善されている等の場合があります。

6 本市の参加状況

令和5年度の参加状況

	小学校		中学校		総 数	
	学校数 (校)	児童数 (人)	学校数 (校)	生徒数 (人)	学校数 (校)	児童生徒数 (人)
国 語	6	104	4	109	10	213
算数・数学	6	104	4	109	10	213
英 語			4	107	4	107

7 教科に関する調査の結果

令和5年度の調査結果

	平均 正答率	小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
全 国	%	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
北海道	%	66	61	70	49	44
士別市	%	72	68	66	49	43

※平成29年度以降文部科学省からは、小数点以下が四捨五入されたデータが
都道府県及び各市町村に提供されています。

8 士別市の学力調査の結果

(1) 全体として

士別市全体として、小学校では、全道（札幌市を除く）の平均正答率（以下「全道平均」と表記）および全国の平均正答率（以下「全国平均」と表記）を国語・算数共に上回りました。中学校では、国語・英語が全道平均・全国平均を共に下回り、数学が全道平均と同等で、全国平均を下回りました。

参考値として国語・算数（数学）については令和4年度の調査データを、英語については前回調査（平成31年度）のデータを比較する形で掲載しました。また、令和5年度の中学3年生は、新型コロナウイルス感染症流行のため小学6年生時（令和2年度）での本調査が未実施であったため比較するデータはありません。

【令和4年度調査と令和5年度調査の結果比較（小学校）】

	平均 正答率	小学校（国語）		小学校（算数）	
		R4	R5	R4	R5
全 国	%	65.6	67.2	63.2	62.5
北海道	%	64	66	61	61
士別市	%	65	72	65	68

【令和4年度調査と令和5年度調査の結果比較（中学校）】

	平均 正答率	中学校（国語）		中学校（数学）	
		R4	R5	R4	R5
全 国	%	69.0	69.8	51.4	51.0
北海道	%	69	69	49	49
士別市	%	71	66	47	49

【平成31年度と令和5年度調査の英語（中学校）を比較】

	平均 正答率	英語		英語「話すこと」	
		H31	R5	H31	R5
全 国	%	72.8	45.6	30.8	12.4
北海道	%	72	44		
士別市	%	69	43		

(2) 小学校の調査問題

① 【国語の結果】

本年度の国語の調査結果は全道平均を6ポイント程度、全国平均を5ポイント程度上回りました。本年度の（学習指導要領）領域別の正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で、全道平均・全国平均を上回っていますが、「我が国の言語文化に関する事柄」で全道平均・全国平均を下回りました。

		士別市	北海道	全 国
国語（全問題）の正答率		72	66	67.2
領 域 別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.3	69.7	71.2
	我が国の言語文化に関する事柄	60.1	61.8	63.4
	話すこと・聞くこと	80.8	72.0	72.6
	書くこと	28.8	23.5	26.7
	読むこと	77.9	69.7	71.2
問 題 別	選択式	77.5	72.5	73.6
	短答式	68.3	60.1	62.7
	記述式	57.7	49.2	51.1

最も正答率が低かった問題は「複数の図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」を問うもので正答率は28.8でした。

問題別では、前回調査と同様に「複数の条件を満たすよう指定された記述式問題」の正答率が低い傾向にありますが、全道平均・全国平均を上回っています。記述式問題の無解答率については、改善の傾向が見られます。

②【算数の結果】

本年度の算数の調査結果は全道平均を7ポイント程度、全国平均6ポイント程度上回っています。(学習指導要領)領域別では、令和4年度調査では「変化と関係」の領域では全国平均を若干下回っていましたが、本年度は全ての領域で全道・全国平均を上回っています。

		士別市	北海道	全 国
算数(全問題)の正答率		68	61	62.5
領 域 別	数と計算	69.4	64.4	67.3
	図 形	58.2	48.7	48.2
	変化と関係	76.2	69.0	70.9
	データの活用	71.2	63.9	65.5
問 題 別	選択式	63.5	56.5	57.7
	短答式	77.5	72.7	74.7
	記述式	58.4	46.0	47.3

問題別では、前回調査までの傾向と同様に他と比較して、記述式の正答率が低くなっていますが、全道・全国平均を上回り改善の傾向にあります。正答率が最も低かったのは短答式の「二等辺三角形の頂角が何度か時に正三角形となるか」を問う問題の正答率が26.9でした。

これまで課題となっていた無解答率については、本年度調査では向上し、多くの設問で無解答率は全国・全道平均と比較して低くなっています。

(3) 中学校の調査問題

①【国語の結果】

本年度の調査結果は、全道平均を3ポイント、全国平均を4ポイント程度下回りしました。次の表に本年度の(学習指導要領)領域別の正答率を示しました。

		士別市	北海道	全 国
国語(全問題)の正答率		66	69	69.8
領 域 別	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.9	66.4	67.5
	情報の扱い方に関する事項	60.6	63.7	63.4
	我が国の言語文化に関する事柄	67.9	74.5	74.7
	話すこと・聞くこと	79.2	81.8	82.2
	書くこと	56.9	62.1	63.2
	読むこと	61.0	63.3	63.7
問 題 別	選択式	71.3	73.1	73.1
	短答式	59.2	65.3	65.6
	記述式	62.8	66.9	68.0

領域別では、全ての領域で全道平均・全国平均を下回っています。なかでも「書くこと」領域の正答率が最も低く、全国平均を6ポイント程度下回りました。

問題別では、「文の一部を直す意図として適切なものを選択する」問題、「表現の効果について、根拠を明確にして考える」問題の正答率が低くなっています。

無解答率については、全国・全道平均と比較して高い傾向にあり、「現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」問題においては無解答率が27.5と非常に高くなっています。

②【数学の結果】

本年度の調査では、全道平均と同程度で、全国平均からは2ポイント程度下回っています。次の表に本年度の（学習指導要領）領域別の正答率を示しました。

		士別市	北海道	全 国
数学（全問題）の正答率		49	49	51.0
領 域 別	数と計算	63.3	61.7	63.0
	図 形	33.3	32.9	33.2
	関 数	47.5	49.7	51.2
	データの活用	42.5	44.5	48.5
問 題 別	選択式	47.7	45.3	45.3
	短答式	59.8	60.4	62.6
	記述式	36.9	39.1	41.6

領域別では、「数と計算」「図形」の問題で全国・全道平均を上回っていますが、「関数」「データの活用」の領域では全国・全道平均を下回っています。

問題別では、「箱ひげ図の箱に着目して説明する」問題や「(題意条件のもとで)計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する」問題等、記述式の正答率が低くなっています。「三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する」問題において正答率は23.9と最も低く、無解答率が40.4と最も高くなっています。

③【英語の結果】

本年度の調査結果は、全道平均を1ポイント、全国平均を3ポイント程度下回りました。次の表に本年度の（学習指導要領）領域別の正答率を示しました。

		士別市	北海道	全 国
英語（全問題）の正答率		43	44	45.6
領 域 別	聞くこと	58.7	58.1	58.4
	読むこと	47.4	48.7	51.2
	書くこと	17.4	21.1	23.4
問題別	選択式	53.0	53.4	54.8
	短答式	24.3	27.4	30.1
	記述式	7.0	11.8	13.5

領域別では、「聞くこと」の領域で全道平均・全国平均を上回り、「読むこと」「書くこと」の領域で下回っています。

問題別では、記述式問題の正答率が低く、無解答率が高くなっています。「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」問題では正答率11.2、無解答率36.4、「学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く」問題では正答率2.8、無解答率29.0と低調であり、課題となっています。

*1人1台端末を活用した「話すこと」調査について

	士別市	全 国
英語「話すこと」の正答率	10	12.4

英語「話すこと」については、中学校4校が期間内実施校として、学校毎に指定された調査日に、オンラインで1人1台端末を活用して実施しました。

英語「話すこと」は前回の英語調査（平成31年度）に引き続き2回目の実施でした。設問数は前回調査同様に5問でしたが、1人1台端末を活用という点が大きく異なりました。難易度は全体的に上がり、全国平均は30.8から12.4に下がりました。特に正答数0が多く、全国全受検者の6割以上が「5問中正答数0」という結果でした。

英語「話すこと」の正答数別の割合

正答数	割合 (%)	
	士別市 委員会	全国 (国公立)
5問	0	0.4
4問	0	1.8
3問	1.9	4.2
2問	11.7	9.6
1問	19.4	20.9
0問	67	63.1

士別市においては、「正答数0」が全体の67%を占めています。また解答類型では、どの設問も2割程度が無解答となっています。

「話すこと」調査については、各学校で、「出題の英文が聞き取れない」「出題意図は理解したが英文が思いつかない」「答えは分かったが言えなかった」あるいは「端末の操作や出題形式に不慣れであった」等の結果の分析を行い、今後の授業改善につなげていく必要があります。

9 児童生徒質問紙・学校質問紙の調査結果

国立教育政策研究所（以下略称：国研）では質問紙調査の結果については、多くの質問項目（児童質問紙約60問、生徒質問紙約80問・小学校質問紙約90問、中学校質問紙約100問）の中から児童生徒質問紙と学校質問紙の関係の深い項目について分析しています。分析項目や取り上げた質問およびその順序（学校質問紙と児童生徒質問紙の順を含む）について国研の調査結果に従い、本市結果と比較し現状と課題を示しました。

(1)学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況について

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について国研では次の設問を関連付けて取り上げています。

学校質問紙No.26（小中共通）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。（「そう思う」の割合）	小学校	21.4%	50.0%
	中学校	19.2%	50.0%
児童質問紙No.33（小）／生徒質問紙No.37（中）		全 国	士別市
・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（「そう思う」の割合）	小学生	30.5%	42.0%
	中学生	30.4%	30.6%

学校質問紙No.33（小中共通）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。（「そう思う」の割合）	小学校	30.3%	66.7%
	中学校	25.3%	75.0%
学校質問紙No.35（小中共通）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。（「そう思う」の割合）	小学校	18.3%	66.7%
	中学校	14.0%	50.0%
児童質問紙No.34（小）／生徒質問紙No.38（中）		全 国	士別市
・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。（「そう思う」の割合）	小学生	35.0%	28.3%
	中学生	22.7%	21.3%

学校質問紙No.27 (小中共通)		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。 (「そう思う」の割合)	小学校	13.2%	50.0%
	中学校	14.6%	50.0%
児童質問紙No.32 (小) / 生徒質問紙No.36 (中)		全 国	士別市
・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 (「そう思う」の割合)	小学生	24.8%	38.0%
	中学生	21.9%	24.1%

分析結果のポイント (士別市)

- 各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されています。また小中学校共に、個人やグループに課題を設定し解決する学習が多く取り入れられています。
- 「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する活動 (小No.32, 中No.36)」
「各教科で学んだこと生かし自分の考えをまとめる活動 (小No.34, 中No.38)」
等において一層の授業改善が必要です。

②個別最適な学び (個に応じた指導)・協働的な学びに関する状況

児童生徒の個別最適な学び (個に応じた指導) や協働的な学びに関する状況については国研では次の設問を関連付けて取り上げています。

児童質問紙No.35 (小) / 生徒質問紙No.39 (中)		全 国	士別市
・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 (「そう思う」の割合)	小学校	37.3%	53.0%
	中学校	13.0%	22.6%
学校質問紙No.31 (小中共通)		全 国	士別市
・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。 (「そう思う」の割合)	小学生	33.2%	83.3%
	中学生	24.6%	100%
学校質問紙No.32 (小中共通)		全 国	士別市
・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。 (「そう思う」の割合)	小学生	30.6%	66.7%
	中学生	28.7%	75.0%

分析結果のポイント（士別市）

- 各学校において、個に応じた学習課題や活動が行われていますが、個に応じた教え方、教材、学習時間など、一層の授業改善が求められています。
- 各学校は、今後も他者との情報交換や協力を要する学習課題や活動を工夫し、児童生徒の協働的な学びの充実が必要です。

③カリキュラム・マネジメントに関する取組状況

各学校のカリキュラム・マネジメントに関する取組状況について国研では次の設問を取り上げています。

学校質問紙No.18（小中共通）		全 国	士別市
・教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。（「よくしている」の割合）	小学生	42.3%	66.7%
	中学生	39.3%	100%
学校質問紙No.19（小中共通）		全 国	士別市
・児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。（「よくしている」の割合）	小学生	39.2%	83.3%
	中学生	35.4%	100%

分析結果のポイント（士別市）

- 各学校の教育計画や年間指導計画は、各教科等の教育目標や内容の相互関連がわかるように作成されています。
- 各学校の教育課程は、編成・実施・評価・改善という一連のPDCAサイクルが確立されています。

(2)英語の学習状況

①学校における言語活動等の取組状況について

英語の学習状況について国研は領域等の各中学校における指導状況と、生徒の受け止め方を比較する形で次のように設問を整理しています。

問 く	学校質問紙No.49		全 国	士別市
		・英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか。（「よく行った」の割合）	38.4%	50.0%
		生徒質問紙No.66		全 国
		・英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。（「当てはまる」の割合）	32.7%	25.9%

読 む	学校質問紙No.50	全 国	士別市
	・英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか。（「よく行った」の割合）	43.0%	75.0%
	生徒質問紙No.67	全 国	士別市
	・英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。（「当てはまる」の割合）	34.9%	30.6%
書 く	学校質問紙No.55	全 国	士別市
	・英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか。（「よく行った」の割合）	19.2%	50.0%
	生徒質問紙No.70	全 国	士別市
	・1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。（「当てはまる」の割合）	43.3%	35.2%
話 す ・ や り 取 り	学校質問紙No.51	全 国	士別市
	・英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか。（「よく行った」の割合）	23.7%	25.0%
	生徒質問紙No.68	全 国	士別市
	・1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。（「当てはまる」の割合）	26.2%	10.2%
話 す ・ 発 表	学校質問紙No.52	全 国	士別市
	・英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する言語活動を行いましたか。（「よく行った」の割合）	32.4%	50.0%
	生徒質問紙No.69	全 国	士別市
	・1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。（「当てはまる」の割合）	42.9%	29.6%
総 合 ／ 書 く	学校質問紙No.55	全 国	士別市
	・英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか。（「よく行った」の割合）	19.2%	50.0%
	生徒質問紙No.72	全 国	士別市
	・1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか。（「当てはまる」の割合）	37.0%	28.7%

総合 ／ 話 す	学校質問紙No.54		全 国	士別市
	・英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか。(「よく行った」の割合)		24.3%	75.0%
	生徒質問紙No.71		全 国	士別市
	・1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか。(「当てはまる」の割合)		41.7%	25.0%

分析結果のポイント(士別市)

- 各中学校では、聞く・読む・書く・話すの4技能のバランスのよい授業が行われ、「話すこと」(やり取り・発表)について授業改善に取り組んでいます。
- 英語で自分の考えを即興で伝え合う活動やスピーチ、プレゼンテーション、問答などを取り入れた言語活動が生徒の課題となっています。

②英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等

児童生徒の英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等について国研では次の設問を取り上げています。

生徒質問紙No.61(中)		全 国	士別市
・英語の授業の内容はよく分かりますか。 (「当てはまる」の割合)		28.0%	21.3%
児童質問紙No.55(小)／生徒質問紙No.59(中)		全 国	士別市
・英語の勉強は好きですか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	38.6%	39.0%
	中学生	25.2%	21.3%
児童質問紙No.57(小)／生徒質問紙No.62(中)		全 国	士別市
・将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	28.9%	28.0%
	中学生	62.4%	44.4%
児童質問紙No.56(小)／生徒質問紙No.60(中)		全 国	士別市
・英語の勉強は大切だと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	69.8%	68.0%
	中学生	61.6%	45.4%
生徒質問紙No.62(中)		全 国	士別市
・英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。 (「当てはまる」の割合)		62.4%	44.4%
児童質問紙No.27(小)／生徒質問紙No.31(中)		全 国	士別市
・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りしてみたいと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	40.8%	41.0%
	中学生	34.9%	23.1%

児童質問紙No.28 (小) / 生徒質問紙No.32 (中)		全 国	士別市
・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	45.7%	49.0%
	中学生	26.2%	18.5%

分析結果のポイント (士別市)

- 中学生は英語の学習の重要性を理解し、将来の職業観からも必要性を感じていますが、英語が「よく分かる」「好き」というところに至ってはいません。
- 外国の人と友だちになる、外国の人に日本や自分の地域を知ってもらう等のコミュニケーションづくりについては、小学生に比べ中学生は消極的な傾向が見られます。

③授業外における英語学習の取組

授業外における英語学習の取組について国研では次の設問を取り上げています。

児童質問紙No.59 (小) / 生徒質問紙No.65 (中)		全 国	士別市
・家庭学習の課題 (宿題) として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	6.2%	6.0%
	中学生	3.4%	1.9%
児童質問紙No.58 (小) / 生徒質問紙No.64 (中)		全 国	士別市
・これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか (小) ・これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか (中) (地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど) (「当てはまる」の割合)	小学生	25.8%	25.0%
	中学生	12.7%	7.4%

分析結果のポイント (士別市)

- 本調査 (4/18) の段階では1人1台端末の持ち帰りを実施していない学校もあり、家庭学習の課題での使用は少なく、各家庭所有のPC・タブレットの活用であると考えられる数値です。
- 本市の地域性を考慮すると質問で例示された (日常的に) 「地域の人や外国にいる人と英語で話す」等、英語で交流することは難しい状況です。今後も1人1台端末等、ICTを活用した継続的な取組が大切です。

(3) ICTを活用した学習状況

①ICTの活用状況学習状況等について国研では次の設問を関連付けて取り上げています。

学校質問紙No.55 (小) / No.63 (中)		全 国	士別市
・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。(「よく行った」の割合)	小学校	65.2%	83.3%
	中学校	62.6%	100%
児童質問紙No.30 (小) / 生徒質問紙No.34 (中)		全 国	士別市
・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。(「そう思う」の割合)	小学生	67.5%	78.0%
	中学生	65.7%	58.7%

学校質問紙No.63 (小) / No.71 (中)		全 国	士別市
・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。(「よく行った」の割合)	小学校	18.6%	0%
	中学校	62.6%	100%
学校質問紙No.64_1 (小) / No.72_1 (中)		全 国	士別市
・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について次のような用途でどの程度活用していますか。 (1) 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援 (「よく行った」の割合)	小学生	18.0%	0%
	中学生	25.3%	25.0%
学校質問紙No.64_2 (小) / No.72_2 (中)		全 国	士別市
・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。 (2) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援 (「よく行った」の割合)	小学校	31.3%	50.0%
	中学校	27.7%	50.0%
学校質問紙No.64_3 (小) / No.72_3 (中)		全 国	士別市
・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。 (3) 外国人生徒に対する学習活動等の支援 (「よく行った」の割合)	小学生	8.0%	0%
	中学生	7.6%	0%
学校質問紙No.64_4 (小) / No.72_4 (中)		全 国	士別市
・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。 (4) 児童生徒の心身の状況の把握 (「よく行った」の割合)	小学生	28.6%	0%
	中学生	28.0%	25.0%
学校質問紙No.64_5 (小) / No.72_5 (中)		全 国	士別市
・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。 (5) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援 (「よく行った」の割合)	小学校	6.0%	0%
	中学校	7.8%	0%

— 分析結果のポイント（士別市） —

- 各学校では授業で児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器が活用され、特に小学生は勉強に役立つと考えています。
- ICT機器の学習以外での活用率は低く、「不登校児童生徒に対する学習活動等の支援」「児童生徒の心身の状況の把握」「児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援」等、における有効活用は今後の課題となっています。

②個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用状況等について国研では次の設問を取り上げています。

学校質問紙No.60（小）／No.68（中）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」の割合）	小学校	16.0%	16.7%
	中学校	12.2%	50%
学校質問紙No.56（小）／No.64（中）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」の割合）	小学生	29.1%	50%
	中学生	28.9%	75.0%
学校質問紙No.58（小）／No.66（中）		全 国	士別市
・教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」の割合）	小学生	29.3%	33.3%
	中学生	24.9%	75.0%
学校質問紙No.59（小）／No.67（中）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」の割合）	小学校	16.4%	16.7%
	中学校	12.4%	50%
学校質問紙No.57（小）／No.65（中）		全 国	士別市
・調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」の割合）	小学校	16.8%	33.3%
	中学校	15.9%	100%

— 分析結果のポイント（士別市） —

- 授業において、児童生徒に問題や課題を配信することや、児童生徒個々の発表場面等で、ICT機器が活用されています。
- 児童生徒個々の理解度・進度に合わせた課題にICT機器を活用することや、児童生徒同士がやりとりをする場面でICT機器を使用することは、今後の課題となっています。

③ICTの活用を推進するための有効な取組について国研では次の設問を取り上げています。

学校質問紙No.53 (小) / No.61 (中)		全 国	士別市
・教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。 (「ある」の割合)	小学校	65.1%	66.7%
	中学校	54.3%	100%
学校質問紙No.54 (小) / No.62 (中)		全 国	士別市
・コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。 (「そう思う」の割合)	小学生	37.7%	16.7%
	中学生	30.8%	25.0%

— 分析結果のポイント (士別市) —

○スキルアップセミナー (市教委主催) や各校の研修等で、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶ機会が作られ、活用されています。

○校内外の十分なICT機器のサポート体制については課題となっています。

(4) 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況について国研では次の設問を取り上げています。

児童生徒質問紙No.4 (小中共通)		全 国	士別市
・自分には、よいところがあると思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学校	42.6%	41.0%
	中学校	37.2%	34.3%
児童生徒質問紙No.5 (小中共通)		全 国	士別市
・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学生	49.9%	61.0%
	中学生	40.0%	47.2%
児童生徒質問紙No.7 (小中共通)		全 国	士別市
・将来の夢や目標を持っていますか。 (「当てはまる」の割合)	小学校	60.8%	58.0%
	中学校	39.4%	37.0%
児童生徒質問紙No.12 (小中共通)		全 国	士別市
・学校に行くのは楽しいと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学校	49.8%	52.0%
	中学校	43.3%	34.3%
児童生徒質問紙No.13 (小中共通)		全 国	士別市
・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学校	32.0%	43.0%
	中学校	32.2%	25.0%
児童生徒質問紙No.14 (小中共通)		全 国	士別市
・友達関係に満足していますか。 (「当てはまる」の割合)	小学校	63.2%	63.0%
	中学校	55.3%	56.5%

児童生徒質問紙No.15 (小中共通)	全 国		士別市
・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。 (「よくある」の割合)	小学校	49.9%	58.0%
	中学校	40.9%	39.8%
児童質問紙No.26 (小)/生徒質問紙No.30 (中)	全 国		士別市
・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。 (「当てはまる」の割合)	小学校	33.2%	39.0%
	中学校	19.6%	13.0%

— 分析結果のポイント (士別市) —

- 国研が取り上げた児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況に関する設問において、士別市は全国平均とほぼ同じ傾向が見られます。また全国的な傾向と同様ですが、多くの設問で小学校よりも中学校で、「当てはまる」の割合が低くなっています。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか。(No.12)」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(No.13)」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(No.30)」において中学生の「当てはまる」の割合が全国平均に比べ低い傾向があり、今後の各中学校での詳細な分析が必要です。

※特に同一項目において学校質問紙と児童生徒質問紙の回答の割合に著しく差がある設問について、各学校で検討が必要です。

10 まとめと課題

本年度調査の問題数は、小学校は国語が14題、算数は16題、中学校では国語・数学が共に15題、英語は17題（「話すこと」を除く）です。問題1題当たりの正答率ポイントは6～7ポイント程度と計算することができます。全ての教科において、士別市の児童生徒は、全国平均の正答数にして±1題の範囲となっています。

小学生では、国語・算数共に全国平均を上回り、良好な結果を得ています。また本年度調査では説明や理由を書く問題の正答率が上がり、無解答率が低くなっています。しかし、学校間で若干の差が見られるところであり、今後も教師自作の教材や練習問題、家庭学習の課題データ等の交流や共有、1人1台端末の効果的な活用などを行っていく必要があります。

中学生では、国語・数学・英語共に全国平均・全道平均を下回っています。また、記述式の問題においては正答率や無解答率について継続的な課題となっています。考えをまとめて書く、説明や証明を書くことに対する苦手意識を払拭すると共に、各種検定に挑戦するなど、意欲的に取り組ませたい出題領域と考えられます。

本年度の「児童生徒質問紙」「学校質問紙」による学習状況の調査については、多くの質問項目からいくつかの項目を関係付けながら考察を加えています。内容については重複するので「9 児童生徒質問紙・学校質問紙の調査結果」の「分析のポイント（士別市）」を参照願います。

例年指摘される中学生の家庭学習の時間が不足していることについては、本市や上川北学区の公立高校入学者選抜の現状を鑑みると、これまでの受験や進学への指導を見直し、小中高12年間を見据えた「望ましい学習習慣」や「キャリア教育」を一貫的指導へ転換する（再確認する）必要があります。

「学校質問紙」については小学校6校、中学校4校と調査母体数が少ないため、前年度調査同様に、質問項目毎のパーセンテージは参考値として把握し、今後においても各学校の学力調査と児童生徒質問紙のクロス集計等の分析を行うことで、一層の授業改善等を図っていく必要があります。

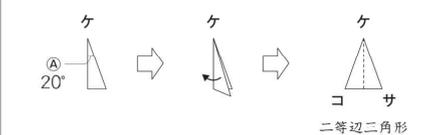
11 今後の対応

本年度の調査結果について、教育委員会会議において報告・説明し、今後の対応等を協議しました。

(1) 今後の学習に向けて

<p>四 相田さんは、「資料1」、「資料2」、「資料3」を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分ができるようなことを考えてまとめようとしています。あなたなら、どのようにまとめますか。その内容を次の条件に合わせて書きましよう。</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。 ○ 分かったことをもとに、これから自分ができるようなことを書くこと。 ○ 八十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。 <p style="text-align: right;">図①</p>	<p>四 「インタビューの様子」の□で南さんは、インタビューを通して自分が考えた「社会で働く上で大切なこと」を星野さんに伝えてインタビューを終えようとしています。あなたなら、どのように話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。</p> <p>なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。</p> <p>条件1 「インタビューの様子」から、星野さんの話の内容を具体的に取り上げて書くこと。</p> <p>条件2 条件1で取り上げた内容を踏まえ、「社会で働く上で大切なこと」についてあなたが考えたことを書くこと。</p> <p style="text-align: right;">図②</p>
--	---

国語の問題では、全国平均は前年度までの調査結果と同様に、小学生・中学生共に記述式問題の正答率は低く、無解答率が高い傾向が続き、課題の一つとなっています。士別市の本年度調査は、中学校は記述式問題（2題全て）において正答率は全国平均を下回り、無解答率は高くなっています。小学校で改善の傾向が見られ、記述式問題（3題全て）において正答率は低いものの全国平均を上回り、無解答率は下回っています。図①は本年度調査の小学校、図②は中学校の記述式問題の一部ですが、いずれも複数の条件に合致した解答の記述でなければ正答とはならないという問題です。児童生徒が、書くことの苦手意識を払拭し、書く力を高めることだけでなく、必要に応じて図やグラフ、文書資料を活用して、自分の考えをまとめて書く力（端末等を活用して入力することを含む）が求められています。国語以外の公立高校の入学選抜問題においても、記述式問題があることから、義務教育終了までに高めたい力の一つです。

<p>わたし ゆいな</p> <p>私は、Aの角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">二等辺三角形</p>	<p>わたし わたる</p> <p>私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、Aの角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。</p> <p>切って開いた三角形を正三角形にするには、Aの角の大きさを何度にすればよいですか。</p> <p>答えを書きましょう。</p> <p style="text-align: right;">図③</p>
--	--

算数・数学では全国的な傾向として基礎的な計算問題はよくできていますが、題意に合う数学的思考によって解答を導き出す問題や、「理由」「方法」等を説明する記述式問題、証明問題に課題があります。

図③は、本年度調査の算数の一部です。正三角形の一つの角の大きさから容易に暗算できる問題とも考えられますが、本市児童の正答率は26.9でした。（題意を理解できなかった児童が7割以上いたこととなります。）

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の△ABCと△CEAは、それぞれCA = CB、AC = AEで、△ABC ≅ △CEAです。

図6

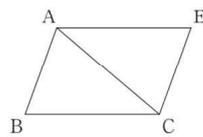


図6において、BC // AEであることは、すでにわかっている△ABC ≅ △CEAをもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。BC // AEであることを証明しなさい。図④

図④は、本年度調査の数学の一部です。三角形の合同条件からの証明とは逆に、三角形の合同を基にして直線が平行であることを証明する問題です。士別市生徒の正答率が23.9と最も低かった問題です。また無解答率も40.4と生徒の

約6割が、問題文に書かれている内容をまとめ、証明として何も書くことができませんでした。中学数学の証明問題への苦手意識払拭は、今後も課題となっています。

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

図⑤

英語においては長文読解問題や記述式問題の正答率が低く、無解答率が高い傾向が継続しています。図⑤は本年度調査問題の一部です。出題は日本語で書かれているので題意は理解できたものと考えることができます。また自分の学校に

ついでの紹介は難しいことではないでしょう。しかし、士別市のこの問題の正答率は2.8（正解者は107人中3名）、無解答率は29.0でした。英単語の語彙不足や英作文の力不足を感じざるを得ません。

1人1台端末を用いての英語「話すこと」調査については、全5問中正解数0の割合が全国平均で63.1、士別市で67.0となっています。

(2) 授業改善のヒント

【国語の学習】

- ①「読むこと」と「書くこと」をリンクした学習
 - ・様々な文種（歴史、科学、小説、評論、報道、取説…）の文章を読む機会を持たせ概要を要約する、1人1台端末で図示する、などの「まとめを書く学習」
- ②「書くこと」と「話すこと」をリンクした学習
 - ・日常的に自分の考えを簡単にまとめて書いたものや、1人1台端末に図示したものをしながら要領よく話す、などの「他に説明する学習」
- ③ジグソー法や思考ツールを活用し、個別と協働を行き来する学習
 - ・いくつかの小課題（個人）を組合せ、小説物語の主題に迫る（協働）など
- ④実践的に敬語を使う場面や経験を設定した課題
 - ・地域学習や社会見学等で、目上の人と話す機会を設定するなど
- ⑤語彙量の不足を補う学習
 - ・1人1台端末を活用し、日常使っている言葉や、テレビ・雑誌等で目や耳にした言葉の漢字表記やカタカナの正しい意味や用法を知る

*特に中学校ではこれらの学習に加え次の3点を加えます。
- ⑥漢字の表記や字形に気を配り、読みやすい文章を書く練習
 - ・読み手が読みやすい文章を書く、敬語を使って手紙を書く、などの練習
- ⑦国語便覧を活用する習慣
 - ・国語的な基礎知識の習得（文学史、故事成語、四字熟語…）
- ⑧授業で使用しているワークブックや学力テスト等の過去問題の反復学習
 - ・授業で間違えた部分やできなかった部分の直し
 - ・複数の条件や指定された文字数を満たし正答となる問題への対応

【算数・数学の学習】

- ①問題で何が求められているのか、読み取る力を高める課題
(答えを求めているのか、立式を求めているのか、求め方を説明するのか…)
- ②図形の問題では、問題の図を「90度、180度と回転させて見る」「補助線を引く」など、紙面上や1人1台端末で視点を変えて見る工夫
- ③記述問題への苦手意識の払拭
 - ・授業の中で、計算や立式、答えのみではなく、「解法の道筋やヒントを板書する」→「ノートにまとめさせる」などの書く学習
 - ・どのように答えにたどり着いたのかを他に説明する学習

*特に中学校ではこれらの学習に加え次の2点を加えます。
- ④証明問題への取組
 - ・無解答率ゼロをめざす指導方法の工夫
 - ・段階的に記述する量を増やす（穴埋め、簡条書き、文章化…）
- ⑤教科書の章末問題や授業で使用するワークブックの問題、文教版学力テスト、等の直し

【英語の学習】

①長文の読解について

- ・よく使われる単語（読み・意味・スペル）を覚える学習や家庭学習課題
例）教科書で学習した単語、使用頻度の高い英単語
have, make, take, get, goなどいくつも意味をもつ動詞の活用
- ・全文を読み、文書の大筋（概要）をつかむ学習や家庭学習課題
例）基礎英語が学べるHP、学習用のニュースサイト等を1人1台端末で活用

②英作文について

- ・プレゼンテーションのために英文を書く学習
- ・一つの話題やテーマに複数のアイデアを組み合わせた英文を書く学習
例）自己紹介、学校紹介、市（町）のPR、自分の趣味

③授業について

- ・教師のテキスト範読後や、生徒が文書を読んだ後、その内容を問うクイズ形式の学習
- ・教師の説明（解説）前に、生徒がテキストやトピックを個人またはペアで読み、教師の質問に答える学習

<ALT サミエル先生からのアドバイス>

- ・長い文書を書くには、実践的に練習するのが1番です。アメリカで、私の先生は授業開始の5分間を作文練習で始めました。題名は自由で「週末の生活」や「達成できた目標」についてなど、好きなトピックについて書きました。
- ・読み書きの両方において、鍵となるのは、生徒にとってそれが自分のものになるように努めることです。英作文では、生徒が自分で選んだトピックについて書かせることで、生徒は自分がよく使う（よく知っている）単語を使用しながら、更に新しい単語を増やしていくことができます。

* 英語の学習についてはサミエル先生の英文を概訳しアドバイスとしました。

12 おわりに

児童生徒の学習成果については、前年度までと同様に各学校が全道・全国の調査結果を踏まえ、本市の分析を参考に、自校の結果を省察し、児童生徒個々に身に付けたい力や抜け落ちている力を補って行かなければなりません。特に各教科を苦手とする児童生徒への手立てが必要です。また授業においては個別の学びや協働的な学びを交互に組合せ、学習を深める工夫改善が必要です。

家庭学習については、今後も引き続き家庭の協力を得て、児童生徒の家庭学習を促し、「小中高12年間を見据えた取組」を模索する必要があります。

ICT機器の効果的活用については、本市では1人1台端末を授業で有効に活用している状況がうかがえます。引き続きICT研修等を通して教職員のブラッシュアップを支援し、個別最適な学び・協働的な学びに向けた一層の端末活用を図ります。また、別室登校など不登校傾向の児童生徒の学習環境向上や教育相談等へのICT機器の活用については検討課題としています。

教育委員会は引き続き各校との連携を深め、教職員研修やICT機器の通信環境やサポート体制等、学校教育の充実を図ると共に、職業体験・文化体験・自然体験を中心とした「土別ふるさと体験広場」や長期休業中の学習をサポートする「チャレンジ寺子屋」などの社会教育事業の発展的継続や家庭教育支援事業などの工夫に努めます。今後も生涯学習の観点からも子どもたちの「生きる力」を育む学びを推進します。

【参考ホームページ】

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について（国立教育施策研究所）

<https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/>

令和5年度 全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書（北海道教育委員会）

<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/168876.html>
